

<http://www.kanagawa-la.jp>

**Kanagawa
Library
Association**

巻頭言 一昔ってどれくらいですか？	1
平成 25 年度神奈川県図書館協会総会報告	2
表彰受賞者・事業計画役員名簿	3
予算・研修計画・委員会名簿	4

一昔ってどれくらいですか？

関東学院大学図書館 小山信弥

「最近、十年一昔という言葉が聞かなくなったなあ」と勤続二十年表彰をいただけることになって思いました。感覚的に勤務をはじめて最初の十年はもう少しゆっくりと時間が過ぎていた気がします。現在では情報環境の急激な進展という意味だけで言えば「一年一昔」、ひょっとすると「半年一昔」という感じかなと思います。

インターネットの普及に代表される情報環境の急激な変化が図書館や情報機関だけでなく、社会全体に広がっていき、情報は電子化され、ほしい情報がすぐ手に入る環境が一部実現してきています。図書館は情報を扱う機関の一つとして電子化にも向き合っていく必要は当然ありますが、ただただスピードだけを追い求めていくだけでなく、利用者が立ち止まって考えられる場所としての役割も担っていく必要があるのだらうと思います。

子どもも大人も、色々と何かに急かされているような現代社会の中で、ゆっくりと本を選び、考え、読書をする、時には職員とあるいは他の

利用者と利用者が共に考え、「先人たちの知恵の宝庫」である数多くの資料の中から一つの課題を解決していく。こういった環境を創り、維持していくことは、「図書館」という組織だからこそ可能だと思うのです。

最近、新しいコンセプトの図書館がオープンしています。運営形態も様々で提供されるサービスも情報環境の進展に伴い、様々です。そこにあるのは多様なかたちの情報提供であり、様々な経験を持つ職員です。運営形態が利用者サービスに同影響を与えていくのか、長期的な視点で見えていく必要もあるでしょう。

私は、この二十年、直接サービスの経験はありません。今回、表彰をいただいたときに、これからも図書館という「情報空間の発展」に貢献していきたいなとあらためて気を引き締めました。私の大学時代の恩師の「図書館は図書館のために存在していない」という言葉を再度思い出して。

「まだまだ図書館にはやれることがたくさんあるはず。」

平成 25 年度 神奈川県図書館協会総会開催報告

平成 25 年度神奈川県図書館協会総会が、4 月 23 日（火）に横浜市中央図書館の地下 1 階ホールにおいて開催されました。

平野達夫会長（県立図書館並びに県立川崎図書館館長）から「神奈川県図書館協会は、公共図書館、大学図書館、専門図書館と館種の異なる図書館が参加していることが大きな特徴である。厳しい財政状況、委託や指定管理の増加、情報の電子化など、図書館をとりまくさまざまな情勢の中で、組織として神奈川県の図書館運営を支える力になりたい。今後とも当協会へのお力添えをお願いしたい。」との挨拶がありました。

続いて、平成 25・26 年度の役員の改選と委員会委員の選出館について、平成 24 年度事業及び決算報告、平成 25 年度事業計画及び予算について審議が行われました。審議事項はすべて原案通り承認されました。

また、湘南短期大学図書館の退会と個人会員 2 名の入会が報告されました。他に、神奈川県緊急財政対策に基づく県立の図書館機能の見直し案に対する要望書の提出についてと、「神奈川の図書館」の神奈川県図書館協会ホームページへの掲載について、報告がありました。



表彰式では、永年勤続職員 17 名と、図書館活動に功績のあった功労者 1 個人 4 団体が表彰されました。平野会長から「表彰された皆様の多年にわたる活動に感謝申し上げる。功労者の方々には、図書館活動を地域から支えてくださっている。これからもご活躍願いたい。永年勤続表彰を受賞した方々は、図書館を内側から支えてきた。ご健康に留意してますますのご活躍と次代の育成にもご尽力をいただきたい。」と祝辞が述べられました。

講演会は、(株)マナビノタネ代表取締役の森田秀之さんをお迎えし、「“大事なもの”がある図書館」と題してお話いただきました。

＜以下概要＞

講師はこれまで、日本各地の多様な文化事業の企画に携わってきた。それらの事業は大きく分けて「図書館」と「ミュージアム」に関わるもの、

そして地域などの「現場」に関わるものに大別することができる。それらに関わるなかで見えてきたのは、図書館(Library)、ミュージアム(Museum)、現場(Site)をつなぐことで、多くの気づきや深い理解を得られる「文化・学びの場」ができるのではないかということである、として「SML 連携」の可能性を指摘した。



では、そもそも「文化」とは何か。人々は、時間を過ごす中で様々なことを感じている。文化とは、この「人々が感ずる時間の堆積」と定義。そして、人々が、名づけようもない大事な“something”を感じる力をもつことが重要であるとした。

では、図書館の“大事なもの”とは何か。それは、本や読書環境ではなく「大事なものを感じる（気づく、想う、考える、描く、分かち合う）時間（瞬間、きっかけ）がある」ことである。すなわち、図書館を含めた文化・学びの場には、時間の堆積の中に身を置き“大事なもの”を想う時間こそが重要である、と結論づけた。

また、今後取り組んでいきたいこととして、施設での「チェックインカウンター（利用者が自らやりたいことを宣言し意識するための場）」の設置や、人々が文化の場で気づいたことを、新しい技術の活用によってつないでいくハイブリッド化の取り組み（ECOMU）などが紹介された。

最後に、TUTAYA による運営が議論を呼んでいる武雄市図書館と、それとは対照的に、市民参加による図書館づくりを積極的に進めてきた伊万里市民図書館を例にあげ、その両方が今後の図書館を考えるよいきっかけになるものであり、また考えるにあたっては、現場を見なければわからないことが多くあるとして「実践なくして、よいサービスを考えることはできません。その試行錯誤ができる個人、組織体制に。」という言葉で講演を締めくくった。

進行役の大塚事務局長より講師へ「自分自身も試行錯誤にわくわくできる『個人』でありたいと思う内容であった。『感じる力』を大切にして、本日の講演を思い返した時にまた新たな発見をしていきたい。」との謝辞が述べられた。

平成 25 年度 表彰受賞者

★永年勤続職員 17 名

土屋美恵子（県立川崎）、高原理津子、斉藤恵子（横浜市中心）、田高桂子（横浜市磯子）、川内直美、小山亜紀子（横浜市都筑）、和田牧子（川崎市立中原）、大村みどり（川崎市立多摩）、小泉明子（平塚市中心）、河合真帆（鎌倉市中心）、太田まさ子（茅ヶ崎市立）、塩田麻美（伊勢原市立）、小山信弥（関東学院大学）、平山雅子（桐蔭横浜大学）、三橋雅之、渡邊利栄子（東海大学）、平井誠二（大倉山精神文化研究所）

★功労者 1 個人 4 団体（ ）内は推薦施設名

○松野 克巳（相模原市立図書館）

昭和 57 年 3 月に「相模原市 16 ミリ映画研友会」に入会し、各種映画会の映写ボランティアとして活動。平成 14 年 4 月からは「相模原市 16 ミリ映画研友会」大野北地区幹事。地区での活動を取りまとめ「研友会」の運営の一翼を担う。16 ミリフィルムを用いた視聴覚教育の重要性を深く理解し、永年にわたり視聴覚教育・生涯学習の振興に貢献。○おはなしの小箱（川崎市立中原図書館）

中原図書館事業である「おはなし会」の運営を市民協働で行い、長年、地域の読書啓発・推進に貢献している。わらべ歌や絵本の読み聞かせ、手袋人形、パネルシアターなどを通して、本と子どもを結びつけていくことを大切に活動し、図書館を中心に地域文化の成熟に寄与している。また、区内の小・中学校でもお話の語りを実施し、ボランティアスキルのブラッシュアップなどの人材育成を行うための講師も引き受けている。

○読書ボランティアすみれ（川崎市立多摩図書館）

昭和 53 年多摩市民館のボランティア講座受講者が集まって作ったボランティアグループで、地域の子どもたちに絵本の読み聞かせなどをおこなってきた。現在会員は 11 名であるが、多摩図書館ほか、保育園や小学校、地域の老人福祉施設などで、子ども、大人を問わず、手分けして読み聞かせをおこなっている。

月 1 回多摩図書館で勉強会を行うほか、多摩図書館の他の 3 ボランティアグループとともにボランティア連絡会を設立して隔月 1 回の定例会を開催し、読書推進を展開している。

○おはなしぽけっと（南足柄市立図書館）

1991 年に南足柄市立図書館で開催されたボランティア養成講座を経て設立された団体である。毎月の定例のおはなし会や行事ごとのとくべつおはなし会、その他、児童向け体験講座講師などを行っている。また、ブックスタートや読みきかせ、文化イベントなどへの協力など、活発な活動を続けている。また、次代につなぐボランティア養成講座にも講師として参加している。子どもをとり

まく大人への啓発活動も併せて行うなど、読書習慣の環境を醸成する役割の一翼を果しており、地域社会への貢献度は大きい。

○劇団ぽぽ（南足柄市立図書館）

1991 年に南足柄市立図書館で開催されたボランティア養成講座を経て設立されたおはなしボランティアグループから、同じ目的を持った数名が独立し、立ち上げた団体である。積極的に素ばなし、語りの人材の育成を行い、また、自らも学ぶために語り部の話を聞きに山形や宮城へ出向き、また全国紙芝居大会開催地を当地へ誘致するなど、外の文化、風を当市に呼ぶ働きかけを行っている。

平成 25 年度事業計画

- 1 図書館に関する調査研究：（1）郷土資料等の調査研究 （2）大学図書館の調査研究
- 2 図書館活動の普及：図書館活動について PR。協会ホームページのメンテナンス作業を実施。
- 3 図書館活動の普及：子ども読書活動推進フォーラムを県立図書館と共催
- 4 研修会の開催：（1）一般研修 （2）児童サービス研修 （3）視聴覚関係研修 （4）見学研修 （5）その他
- 5 機関紙、その他の印刷物の刊行：
○「神奈川県図書館協会報」○「神奈川の図書館」○「神奈川県皇国地誌残稿所在目録」
- 6 図書館相互の連絡協調：○次の会議を行う。
（1）総会 （2）理事会（3）その他
○永年勤続職員及び県内図書館の功労者に対する表彰（総会開催と同時に実施）

平成 25 年度役員名簿（平成 25 年 4 月 1 日）

会 長 平野達夫（神奈川県立図書館）

副会長 神谷洋二（横浜市中心図書館）

山田徹（神奈川大学図書館）

理 事 山本長史（副館長）（神奈川県立図書館）

佐々木敏隆（副館長）（神奈川県立川崎図書館）

坪内一（企画運営課長）（横浜市中心図書館） 田辺

浩嗣（川崎市立中原図書館） 岡崎扶佐子（相模原

市立相模大野図書館） 小貫朗子（横須賀市立中央

図書館） 山崎秀男（藤沢市総合市民図書館） 鈴

木健（小田原市立図書館） 小川俊彦（逗子市立図

書館） 三橋由紀子（厚木市立中央図書館） 角田

孝志（大磯町立図書館） 白石小百合（横浜国立大

学学術情報センター） 富岡幸一郎（関東学院大学

図書館） 樋川直司（相模女子大学附属図書館）

二藤彰（鶴見大学図書館） 田中康夫（東海大学付

属図書館） 田中文雄（神奈川県ライトセンター）

監 事 佐藤正昭（福祉保健研修交流センター

ウィリング横浜） 澤茂樹（神奈川近代文学館）

事務局長 大塚敏高（神奈川県立図書館）

平成 25 年度予算

＜一般会計＞

収入 (円)		
分担金等収入	各館分担金	1,474,000
	会費（個人会員）	42,000
補助金	日図協助成費	122,000
繰越金	前年度繰越金	1,052,037
雑収入	雑収入	75,200
合計		2,765,237
支出 (円)		
事務費	事務局費	155,000
事業費		
会議費		51,000
調査研究費	調査研究費	130,400
	館員等研修費	498,000
広報活動費	会報等発行費	563,000
	図書館総合展経費	173,000
表彰費	表彰費	132,000
予備費		1,062,837
合計		2,765,237

＜出版特別会計＞

収入 (円)	
前年度積立金	1,045,021
販売収入	10,700
雑収入	160
合計	1,055,881
支出 (円)	
「神奈川県皇国地誌 残稿所在目録」刊行費	540,000
郷土資料集成積立金	515,882
合計	1,055,882

平成 25 年度研修委員会 研修計画 (6月 20 日現在)

	開催日	研修内容
施設見学	9 月 11 日 (水)	川崎市立中原図書館
	11 月	大学図書館
	1 月	国会図書館
講演	7 月 11 日 (木)	障害者サービス
	10 月	事業の企画・運営
	11 月	高齢者サービス
児童	12 月 21 日 (土)	県の子ども読書活動推進フォーラム
	2 月	児童サービス
視聴覚	9 月	視聴覚資料の修繕
総合展	10 月下旬	会場：パシフィコ横浜 講師・テーマ：未定 ＊総合展の開催期間（10/29～10/31）に行います。



平成 25 年度委員会名簿

◎は委員長

＜企画委員会＞◎坪内一（横浜市中心） 田辺浩嗣（川崎市立中原） 佐藤聡（大磯町立） 岡崎扶佐子（相模原市立相模大野） 高橋英子（相模女子大学） 田中文雄（神奈川県ライトセンター） 古根村政義（県立） 入船康子（横浜市中心） 堀江美由紀（神奈川大学）

＜広報委員会＞◎田辺浩嗣（川崎市立中原） 白石智彦（県立） 鳥丸瑞恵（横浜市中心） 沖田香織（県立川崎） 小島久和（川崎市立中原） 山崎礼子（大和市立） 谷坂知佳子（茅ヶ崎市立） 鈴木隆雄（横浜国立大学） 阿部真由美（東海大学） 松本智香子（県立公文書館）

＜郷土・出版委員会＞◎佐藤聡（大磯町立） 芳賀こずえ（県立） 依田一（横浜市中心） 中田孝信（鎌倉市中心） 金井雄二（座間市立） 曾我勉（小

田原市立） 吉本貴子（神奈川近代文学館）

＜研修委員会＞◎岡崎扶佐子（相模原市立相模大野） 伊大知綾子（県立） 吉田倫子（横浜市中心） 吉田顕治（県立川崎） 大村みどり（川崎市立多摩） 山本佳世子（鎌倉市中心） 利根川博（逗子市立） 遠藤恭代（相模原市立相模大野） 宮原淳子（厚木市立） 田畑愛（平塚市中心） 田嶋有紀子（藤沢市総合市民） 日比野友哉（南足柄市立） 浅香誠一（鶴見大学） 田中典子（関東学院大学） 金井恵美子（神奈川県ライトセンター）

＜大学図書館委員会＞◎高橋英子（相模女子大学） 鈴木隆雄（横浜国立大学） 北川隆範（横浜市中心） 堀江美由紀（神奈川大学） 間部志保（関東学院大学） 長谷川豊祐（鶴見大学） 三井悟（東海大学）